# めざせ省エネ達人

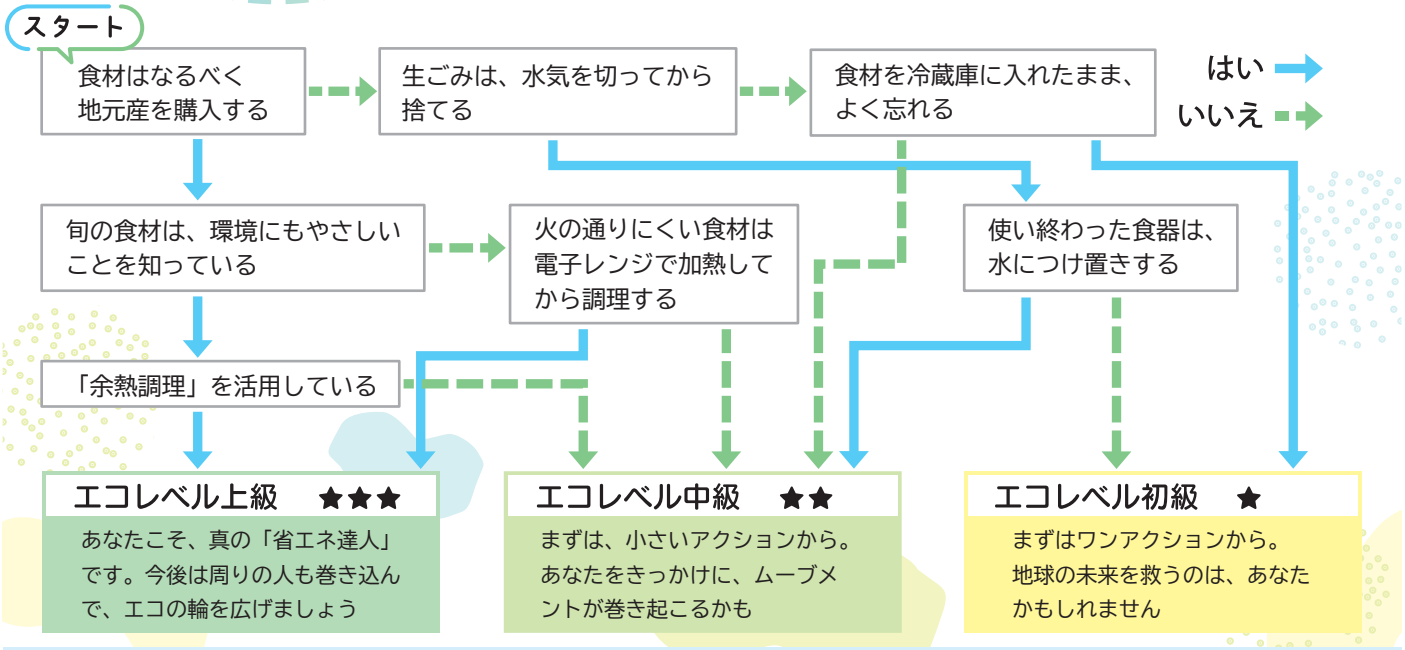
～日常生活のかくれたエコをさがせ～

## 第7回：調理編

ID 059394

生活習慣を見直してアクションを始めることが、省エネ達人への第一歩。まずはあなたのエコレベルを確認しましょう。

環境政策課/TEL674-7486




**アドバイス** 皆さんはエコ・クッキングをご存じですか。地球環境を考えながら「買い物」「調理」「食事」「片付け」をする取り組みです。例えば、地元産の食材を使えば運搬による二酸化炭素の排出が抑えられ、旬の食材であれば保管などに必要なエネルギーの使用が抑えられます。日々の食事がおいしく、地球にもやさしいので幸せも2倍ですね。

たかつき歴史アラカルト109

# 永井直清の武功を物語る甲冑

大坂夏の陣が決戦を迎えようとしていた慶長20（1615）年5月7日、豊臣方が仕掛けた大攻勢を迎え撃つ将軍徳川秀忠の軍勢の中に、後に高槻藩主となる若き日の永井直清（なおきよ）の姿がありました。直清は当時25歳で、秀忠の旗本でした。豊臣方は猛攻を重ねて秀忠の本陣近くまで迫り、秀忠の旗本衆は防戦に追われます。この激戦の中で直清は鎧武者を2人討ち取りました。戦局は、数で勝る徳川方が巻き返して大坂城内へ攻め入り、大坂城は落城したのです。

戦後、直清はこの武功により530石を授けられました。その後も功績を重ね、慶安2（1649）年に59歳で石高3万6千石を有する高槻藩主となりました。以降永井家は、明治4（1871）年の廃藩置県まで13代にわたって高槻藩主の座に就きました。

大坂の陣で直清が着用した甲冑は、野見神社（野見町）の境内に建つ、永井神社に伝来しています。同社は寛政5（1793）年に直清を祭神として創建され、甲冑は明治時代に永井家から奉納されました。

この甲冑は、当世具足（とうせいぐそく）と呼ばれる機能的な実戦向きの形式です。胴を黒漆と朱漆で塗り分け、胸の部分と腰回りの草摺（くさずり）、両腕の籠手（こて）には金箔を貼った華やかな色彩です。黒漆塗の兜には、徳川家の旗本であることを示す「金の輪貫（わぬき）」の前立が掲げられています。

現在、全国に数多くの甲冑が伝来していますが、所有者が判明し、なおかつ実戦で使用されたことが確実なものは少ないため、貴重です。永井神社に伝来する直清ゆかりの品々とともに、市の指定文化財になっています。

（しろあと歴史館）

永井直清が着用した甲冑（野見神社蔵）